

オスプレイ墜落

飛行停止し原因究明を

米軍の輸送機オスプレイが、鹿児島県屋久島沖で墜落した。これまでも事故やトラブルを繰り返してきたが、国内ではかつてない重大な事故だ。オスプレイは自衛隊も導入し、南西諸島防衛に重要な役割を担っている。不明者の捜索を急ぐとともに、徹底的な原因究明が求められる。

事故機は米軍横田基地（東京都）所属の空軍機。8人が搭乗し、米軍岩国基地（山口県）から米軍嘉手納基地（沖縄県）に向かつており、屋久島沖で定期訓練中だったという。オスプレイによる国内の死亡事故は初めてだ。

オスプレイは全国の米軍基地や自衛隊の基地・駐屯地に飛来し、各地で訓練もしている。市街地上空を飛ぶ姿もしばしば目撃される。ひとつ間違えれば、住民を巻き込む惨事になりかねない。

防衛省が米軍に対し、安全

が確認できるまで、飛行を中止するよう要請したのは当然だ。住民の安心を最優先に、納得できる事故原因の説明がないまま、飛行や訓練の再開を急ぐことのないよう、厳しく求め続けねばならない。

オスプレイは沖縄県民の強い反対を押し切って、2012年から米軍普天間飛行場に配備が始まった。現在は、空軍仕様のCV22が横田に6機、海兵隊仕様のMV22が普天間に24機配備されている。

米軍や防衛省は事故が起きるたびに、他の機種と比べて安全性で劣っているわけではない、と強調してきた。しかし、繰り返される事故を目的に、繰り返される事故を目的に信じると言われても無理がある。

16年に普天間のMV22が沖縄県名護市沖で大破し、乗員5人がけがをした事故は、空中給油中のホースとプロペラの接触が原因とされた。昨年

6月、米カリフォルニア州でMV22が墜落し、乗員5人が死亡した事故では、動力を伝えるクラッチに深刻な不具合が見つかったと報告された。

今回はエンジンから炎があがっていたとの目撃証言もある。構造的な問題はなかったのか、解明が不可欠だ。

オスプレイを運用する陸上自衛隊も、当面の飛行停止を決めた。木更津駐屯地（千葉県）に14機を暫定配備中で、25年7月までに、佐賀市の佐賀空港の隣に建設中の駐屯地に移す計画だ。南西諸島防衛の要となる部隊の輸送などを想定しているが、地元との調整が難航し、工事はこの6月に始まったばかりだ。

政府は中国を念頭に、防衛力の「南シフト」を加速させている。沖縄をはじめとする地域住民の理解と支持を得られるか。今回の事故対応はその試金石にもなる。